

2019年7月 発行

一般財団法人同友会
藤沢湘南台病院
藤沢ケアセンター
藤沢訪問看護ステーション
居宅介護支援センター
長後いきいきサポートセンター
ライフメディカルフィットネス
ライフメディカル健診プラザ

【一般財団法人同友会 法人目標】

- ① 24時間、迅速急性期医療と専門性を持つ医療の充実
- ② 医療、保健、福祉における包括サービスの提供
- ③ 地域コミュニティ形成を目指す健康増進の推進
- ④ すべての職種に対する医療者としての教育、研修の場の確立

【藤沢湘南台病院 病院理念】

- ① 信頼とやすらぎのある医療
- ② 専門性と倫理観のある医療
- ③ 地域に貢献する医療



私たち、藤沢湘南台病院 地域医療総合支援センタースタッフです

当センターは「地域医療連携室」、「医療福祉相談室」、「入退院支援室」からなります。この3部門のスタッフが力を合わせて、地域の住民の方々、医療・介護に携わる方々のお役に立てるよう、今後とも宜しくお願い申し上げます。

在宅療養後方支援病院



平成26年5月には「在宅療養後方支援病院」の届け出をしています。これは、ご自宅で往診医の診療を受けられている患者様やご家族が安心して療養生活を続けられるように、緊急時にスムーズに外来受診や入院診療ができる制度です。この制度の運用にあたり、『あんしん連携カード』を活用しています。

当院は藤沢市北部にあり、綾瀬市、大和市、横浜市に隣接しているため広い地域から患者様が来院されます。急性期基幹病院としての機能はもちろん、地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟、療養病棟などの慢性期治療を担当する病棟も併せ持っております。地域の方々の健康を守るという理念を実現すべく、当センターの役割としては、より円滑な病診連携（病院と診療所）、病病連携（病院と病院）、病介連携（病院と介護施設）を目指しております。

今年3月に前任の田村功先生から引き継いで地域医療総合支援センター長に就任いたしました、藤井真（写真前列中央）です。一般財団法人同友会藤沢湘南台病院では、平成25年に『地域医療総合支援センター』を立ち上げました。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました

当院ではこの度、手術支援ロボット“ダヴィンチ”を導入することとなりました。ロボット手術は現在広く行われている内視鏡的治療の延長上にあり、今後ますます普及すると思われます。

“ダヴィンチ”は術者が直接3D画像を覗きながらロボットを操作する「①サージョンコンソール」と直接患者側に立って術者の手の代わりとなるロボット「②ペイシェントカート」と腹腔内あるいは胸腔内の操作中の画像を映し出す「③ビジョンカート」の3つの機器によって構成されています。



①サージョンコンソール ②ペイシェントカート ③ビジョンカート

術者は「サージョンコンソール」に座り、立体的に映し出される画像を覗きながらコンソール内のハンドルを操作させるとペイシェントカートのアームが連動して動く仕組みになっています。人間の手より関節が多く、自由度が増すため、今までの内視鏡操作では出来なかった操作が可能になり、アクセス困難なアプローチを可能にし、結果としてより短時間でより正確に、より安全な治療の達成を支援することになります。我が国では現在までに約350台導入されていますが、藤沢市では当院で2台目になります。



当面は直腸癌、前立腺癌の手術から始め、今後は胃切除、肺切除へと拡大し、若手医師の育成にも努めていくつもりです。

第5回 地域医療連携懇話会を開催

日時：令和元年6月12日(水) 19:00~21:00
会場：藤沢湘南台病院 1号館2階 会議室
参加：102名【院外49名(23施設)+院内53名】
第1部 特別講演
「直腸癌に対するロボット手術の現状」
【講師】横浜市立大学附属病院 消化器外科 石部 敦士 先生
第2部 懇親会+ダヴィンチ体験・見学会

この会は、近隣の医療機関との「顔の見える連携」の実現が目的であり、医療情報の提供のための講演会とスタッフの情報交換のための懇親会で構成されています。概ね年1回、今回で5回目の開催となり、参加者は102名と過去最多となりました。

今回は特別講演として、2018年4月に保険適用範囲が大幅に拡大された、ロボット支援手術の現状について、横浜市立大学附属病院 消化器外科 石部敦士先生にご講演を頂きました。当院でも手術支援ロボットの「ダヴィンチ」が導入され、今後直腸癌をはじめとする外科手術に積極的に活用していくところがありますが、石部先生は、ロボット手術のメリットや従来の腹腔鏡手術との違い等を、実際の手術映像を用いながら参加者にわかりやすく説明してくださいました。

第2部の立食パーティー形式の懇親会は、和やかな雰囲気が進み、また、別会場では実際に「ダヴィンチ」の操作を体験する見学会を開催しました。多くの方にご参加頂き、ロボット手術の一端を体感してもらいました。





藤沢湘南台病院 療養病棟

急性期治療を終えても、病院での継続的な療養が必要な患者様が医療保険で入院する病棟です。アクティビティ・ケアを活用し、日常生活動作に視点をおき、患者様のできるところを活かし、「その人らしさ」を大切にケアをしています。慢性期～終末期医療が可能な病棟です。患者様への関わりとして、快の刺激に着目した心地良いケアから、「丁寧に行くこと」「笑顔で接すること」を特に心掛けています。また、地域の介護事業所などと緊密な連携による退院支援体制を整え、在宅復帰や施設入所等を支援させて頂いています。



介護老人保健施設 藤沢ケアセンター

施設の入所対象となる方は、病状が安定して入院治療の必要はなくても、リハビリテーションや看護・介護が必要な要介護者となります。また介護する方の負担軽減のため、1～2ヶ月の季節入所も利用可能です。介護老人保健施設は、少子高齢化時代を迎え病院と在宅の中間施設（在宅復帰施設）として重要性が増しています。藤沢湘南台病院など法人内の6つの事業所の関連部署と連携をとり、施設長をはじめ多職種の職員が、高齢者の生活をしっかり守り続けられるよう業務に当たっています。



藤沢訪問看護ステーション

かかりつけ医師の指示のもと、脳梗塞でマヒが残り生活の指導が必要な方、がんで疼痛コントロールが必要な方など、様々な病状の方を対象に訪問看護を行っています。また薬の飲み方や便秘でお困りの方などにも対応しています。藤沢湘南台病院をはじめ地域の医師の方々や関係職種の方々との迅速な連携を心掛け、安心して生活できるよう24時間体制を整えています。「住み慣れた自宅で自分らしく療養したい」「自宅で最期を迎えたい」との思いを支えます。



藤沢湘南台病院 居宅介護支援センター

在宅での介護支援が必要な高齢者の方を、その方の状況に合わせてサポートしていく業務を行っています。サポートを行う上で、医療機関や他の関係団体との連携が必要であり、平成30年の法改正でも介護と医療の連携をより一層推進する事が盛り込まれました。これからも地域包括ケア病棟や慢性期病棟（回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、療養病棟）とも連携を深め、地域の皆様のお役に立てるよう職員心を合わせて取り組んでいきます。



藤沢市長後地域包括支援センター(長後いきいきサポートセンター)

介護保険法に基づき、高齢になっても住み慣れたまちで暮らし続けられるよう、様々な方面から高齢者を支えるため、平成18年に全国に設置された相談機関です。藤沢市から委託を受けて業務に当たっています。毎月延べ130件ほどの様々な相談と300件を超える方の介護保険の担当をしています。どのような相談もワンストップで受けて対応するため、保健師（看護師）、社会福祉士、主任介護支援専門員の3職種を配置し、高齢者人口の増加にあわせ、現在では7名体制で業務に当たっています。



慢性期部門活性化プロジェクトメンバー

昨年10月より慢性期部門活性化プロジェクトを稼働しています。『“その人らしく生きる”をサポートするために』をテーマとして、地域の方々が安心して生活できる環境を整備し、住み慣れた藤沢の地で、いつまでもその人らしく安心して暮らせることを目指しております。

一般財団法人同友会には慢性期の医療・介護を担当する部門として、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、療養病棟、介護老人保健施設 藤沢ケアセンター、藤沢訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、藤沢市長後地域包括支援センター（長後いきいきサポートセンター）の7部門があります。今回はそれぞれの役割、特徴、担当するスタッフをご紹介します。

（慢性期部門活性化プロジェクトリーダー 一般財団法人同友会常務理事 藤井 真）



藤沢湘南台病院 回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの疾患に対する急性期治療が終了しても、なお機能回復が不十分で退院困難な患者様を対象としています。患者様が起きる、食べる、歩く、トイレに行く、お風呂に入るなどの日常生活動作の改善を図るため、集中的なリハビリテーションを行い、心身の機能回復を図ることでご自宅や社会への復帰を支援する病棟です。



藤沢湘南台病院 緩和ケア病棟

この病棟は患者様自身が、がんと理解された上で、がん進行に伴う身体的、精神的苦痛を緩和し、最期までその人らしい生き方を支援することを目的としています。また辛い症状が緩和され、在宅療養が可能になった場合には、その支援も行っています。患者様のQOL維持のため、医師、看護師だけでなく、多職種のスタッフが一丸となって、1人の患者様とご家族をサポートする体制を整えております。